

花きの活用促進のための花育体験の取組

豊橋市立高根小学校 4年生の
令和2年9月～11月（3か月）
にわたる花育体験記録



取組名称	子ども「らん育」プロジェクト
目的	児童が教育の現場において地域で生産されている花や緑に触れ育てる機会をつくり、開花までの一連の栽培活動を通じて、生命の尊さを実感してもらいつつ、「やさしさや美しさ」を感じる気持ちを醸成。
取組内容	はなわく JAPAN (豊橋市花き園芸振興協議会の洋らん部会) が豊橋市立高根小学校に出向き、花育教室 (全 3 回) を実施

花芽付きのコチョウランの苗を小学4年生一人ひとりに提供し、約3か月間(9月初旬～11月下旬)、水やりなど丁寧に管理をしつつ花を育て、咲かせることを体験。

【第1回：9月7日】

はなわく JAPAN (豊橋市花き園芸振興協議会洋らん部会) の伊藤さんと北谷さんが講師です。よろしくお願いします！



豊橋の洋ラン生産は日本一、知ってた？

どれにしようか迷っちゃう？



水やりは、どれくらいまで？



【第2回：10月5日】

講師の伊藤さん、北谷さんからは、「花の健康チェック、キズはないでしょうか？」
「花芽や根をよけて、はちに支柱をさします、そしてピンチで茎を支柱に留めて！」
と丁寧に教えていただきました。
さあ、もう少しで花が咲きます、それまでしっかりと世話をしてください。

よく見て一。支柱を指す位置はここ！



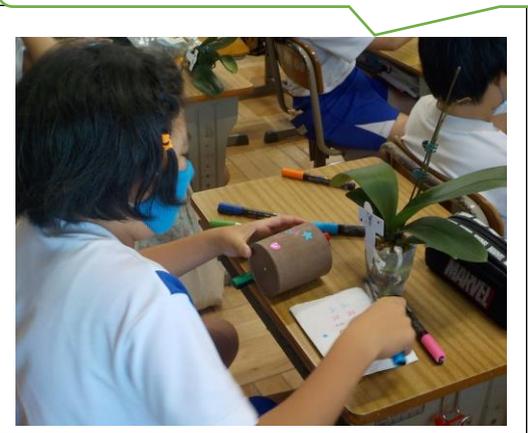
支柱はどこに刺せばいいのかな？



花は傷がつきやすので、花芽を持たないで！



鉢に絵を描いて感謝の気持ちを伝えよう！



【第3回：11月30日】

コチョウランが咲いたら、日頃の感謝を込めて大切な人（保護者、家族）へプレゼントをすることで、花への関心を深めるとともに親しみを感じてもらい、コチョウランを含め花きの需要拡大への契機とします。

メッセージには感謝の気持ちを込めて！



照れくさいけど、「ありがとう」って書こうかな？



家に帰ったら、大事に育てた「らん」をプレゼント！



3か月の間、みんなで心をこめて大事に「らん」を育てたよ！



【花育体験アンケート】

花育体験終了後、4年生児童の皆さんと保護者の方にアンケートに答えてもらいました。

【4年生児童】

Q1. 「らん」の花育体験は楽しかったですか？	<input type="checkbox"/> 楽しい	<input type="checkbox"/> 楽しくない	<input type="checkbox"/> わからない		計
	38人		2人		40人
	95.0%	0.0%	5.0%		100.0%
Q2. 今回の花育体験で、どんな気持ちになりましたか？	<input type="checkbox"/> 癒された	<input type="checkbox"/> 元気になった	<input type="checkbox"/> 緊張や不安がほぐれた	<input type="checkbox"/> 特になし	計
	9人	23人	3人	5人	40人
	22.5%	57.5%	7.5%	12.5%	100.0%
Q3. 自分で大切に育てた「らん」の花を家族に贈ったときの気持ちは？	<input type="checkbox"/> 感謝の気持ち	<input type="checkbox"/> 一つの事をやり遂げた気持ち	<input type="checkbox"/> 特になし		計
	30人	8人	2人		40人
	75.0%	20.0%	5.0%		100.0%
Q4. またやりたいですか？	<input type="checkbox"/> やりたい	<input type="checkbox"/> やりたくない	<input type="checkbox"/> 分からない		計
	37人		3人		40人
	92.5%	0.0%	7.5%		100.0%

アンケート結果分析

○花育体験は殆どの児童が楽しいと回答（95%）。

花生体験を通して「元気になった（57.5%）」「癒された（22.5%）」と回答しており、花（植物）が児童に与える精神的影響が大きいことが感じられます。

○また、自分自身で大切に育てた花を家族に贈る時には「感謝の気持ち（75%）」を込めており、花育の体験により優しさや思いやりの気持ちが一層醸成されています。

○今回の花生体験を契機に殆どの児童が、「またやりたい（92.5%）」と回答、花（植物）を自分で育てることへの達成感が感じ取れます。

【保護者】

Q1. 花育体験後、ご家庭で花や緑に対する心の変化がありましたか？（複数回答も可）	□花や緑が身近にあると癒しや、部屋の雰囲気	□アレンジや生け花を始めたいと思う。「始めた」「増えた」	□ガーデニングを始めたい。「始めた」「増えた」	□生花店や園芸店に行く機会を増やしたい。「増えた」	□お祝いなどの贈り物に花や緑を使いたい。「使った」「もっと使いたい」	□これまでと、あまり変わらない。	計
	22人	3人	3人	7人	10人	13人	58人
	37.9%	5.2%	5.2%	12.1%	17.2%	22.4%	100.0%
Q2. 花育体験の前と後で、ご家庭ではどれくらいの花や緑を購入していますか？	花き購入者数（購入頻度）	花育体験前		花育体験後 （花育体験終了2か月後）			
		7人（0.2～2回程度／月）		9人（0.2～3回程度／月）			
<p>アンケート結果分析</p> <p>○花育体験後の心の変化では「癒しや、部屋の雰囲気が明るくなったと感じる。」家庭が最も多く、「生花店、園芸店に行く機会を増やしたい」や「贈り物に花や緑を使いたい」と花・緑に対する関心が深まった状況がみられます。</p> <p>○花育体験前後の購入状況では、購入者人数では体験前の購入者数7人に対して、体験後は9人と伸びており、花育体験を契機として花きの購買に繋がったと考えられます。</p>							

豊橋市高根小学校「洋蘭を学ぶ授業」



講師に生産者招いて地域の特産理解

豊橋の特産物である洋蘭。その栽培が特に盛んなのは、高根小学校区です。校区の洋蘭生産者の方を講師に迎え、四年生が、洋蘭について学ぶ授業を行っています。

授業では、初めに洋蘭についての概要や流通の話があり、その後、自分が育てていく胡蝶蘭の苗を選びます。世話の仕方も教えていただき、次の授業までの一か月ほどは、自分たちの力で世話をします。次に、茎を支柱に専用のクリップで固定し、まっすぐに伸びるようにします。最後に、花が咲いた胡蝶蘭にラッピングやデコレーションをして、大切な人へプレゼントします。子どもたちは胡蝶蘭についての調べ学習とともに、胡蝶蘭を受け取る人の喜ぶ顔を思い浮かべながら、定期的に水をあげたり、花の色を選んだり容器のデザインを考えたりして、大切に育てる活動に取り組んでいます。



また、洋蘭生産者の方々には、授業日以外にも蘭の様子を見に来ていただくなど、大変お世話になっています。自分の住む校区を改めて見直し、地域のよさに気づくことで、高根の胡蝶蘭は子どもたちにとって自慢の一つとなっています。

(鐘田吉隆教諭)